KOCHI BACH KANTATEN VEREIN

高知バッハ カンタータフェライン

［合唱・器楽］

高知バッハカンタータフェラインは、1997年4月高知大学助教授小原浄二氏の呼びかけにより、J.S.バッハを中心とするバロックおよび古典の声楽作品を研究・演奏する団体として発足。メンバーは合唱経験も年齢も多種多様だが、小原氏の指導のもと心を一つに練習に励んでいる。1998年3月の第一回演奏会以来、毎年春に演奏会を開催。バッハのカンタータ多数・ヨハネ受難曲・モテット、モンテヴェルディやシュッツ等の作品を取り上げ、“土佐の地にもバッハを”の想いと共に意欲的な活動を行う。2002年にはドイツから初来日したライプツィヒ・バロック・オーケストラと共演し、コンサートマスターより「光を放つような素晴らしい合唱」と高い評価を得る。また、その縁から2004年夏にはドイツ演奏旅行を果たし、アイゼナハ・アイスレーベン・ライプツィヒなどバッハゆかりの地での演奏会に出演、その暖かい音色と確かな表現力は現地でも絶賛された。

前回の創立10周年記念演奏会から一年が経ち、私たちの新たな一歩ともいえる第11回演奏会を迎えることとなりました。

演奏曲目は、私たちの活動の中心であるバッハのカンタータを二曲、そして、ヴィヴァルディの“グローリア”です。

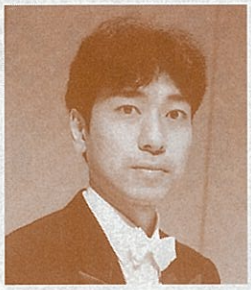
信仰のあり方や自分自身の生き方を深く見つめるバッハのカンタータに対して、ヴィヴァルディの作品からは、感謝と祈りが輝きを伴って溢れ出てくるようです。

バロック時代のドイツとイタリアを代表する二人の作曲家からの贈り物を、心を込めて皆様にお届けします。

CHORUS & INSTRUMENTAL MUSIC

小原浄二

［指揮］



岩手大学教育学部卒業後、東京芸術大学音楽学部声楽科に進学し首席で卒業。松田トシ賞受賞。同大学院修士課程独唱科修了。声楽を、佐々木正利、伊藤亘行、多田羅迪夫の各氏に師事。ドイツリート、オラトリオを中心に研鑽を積み、東京芸大時代には小林道夫氏のもとバッハカンタータクラブに所属し、研究・演奏を行う。その後、国内外の演奏会にソリストとして出演。1991年にはウィーン楽友協会ホールにおいて、ブラームスの「ドイツレクイエム」また1993年にはシュトゥットガルト、ケルン、ドレスデン、ワイマール等において、フォルトナー「ヘルダーリンの詩による歌曲」を歌い好評を博す。1992～1994年には、鈴木雅明氏が音楽監督を務めるバッハコレギウムジャパンのコーラスマスター及びソリストとして活躍。1994年～1995年ドイツ留学し、H.クレッチマール氏に師事。留学中も積極的に演奏活動を行い、特に、ミュンヘン、ヘラクレスホールにおけるニュルンベルク交響楽団定期公演、J.ツィルヒ指揮、ハイドン「天地創造」バスソロなどは、現地新聞紙上において絶賛される。帰国後も全国各地に招かれソロ活動を行い、宗教音楽の世界的名指揮者である、H.J.ロッチュ、G.Ch.ビラー等との共演や、新日本フィルハーモニー交響楽団定期公演における、G.ボッセとの共演のほか、関西フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、スウェーデン放送合唱団との共演などで高い評価を得ている。

現在、高知大学教育学部准教授。高知バッハカンタータフェライン指揮者。アンサンブル《BWV2001》メンバー。

CONDUCTOR

蒲生克郷

［コンサートマスター］

東京芸術大学卒業。NHK・FM「夕べのリサイタル・新人演奏会」に出演。1976～78年渡独。ヒルデスハイム市立歌劇場管弦楽団奏者、ヒルデスハイム室内管弦楽団コンサートマスターを務める傍ら、ヴェルツブルク音楽大学にて研鑽を積む。帰国後は室内楽奏者として憩弦楽四重奏団、東京バロックアンサンブル、東京バッハアカデミー、久合田緑弦楽四重奏団などで活躍する一方、東京芸大バッハカンタータクラブ、盛岡バッハカンタータフェライン、盛岡バッハアンサンブルの指揮者を務めた。1987～88年神戸女学院大学講師。現在、東京芸術大学管弦楽研究部講師、及び同部［芸大フィルハーモニー］コンサートマスター。エルデーディ弦楽四重奏楽団第1ヴァイオリン奏者。アンサンブル of トウキョウメンバー。水戸バッハコレギウム、日立室内アンサンブル、水戸ジュニアオーケストラ、ひたちジュニア弦楽合奏団各指揮者。多久興、海野義雄、ボリス・ゴールドシュタインの各氏に師事。

CONCERT MASTER

http://kbkf.hp.infoseek.co.jp/verein/